

意見交換会報告書

開催日時	令和5年11月19日（日）午後1時30分 終了：午後3時30分	
開催場所	福祉ふれあいセンター2階 教養娯楽室	
対象団体	今、いまを大切に未来につなぐ imaima・	
参加人数	15人	
班構成	B班	木谷和栄、中野 進、田代敬子、小川義昭、村本一則、 宮岸美苗、藤田政樹
役割分担	司会・挨拶：藤田 記録：田代、中野、木谷	

意見交換会テーマ「学校給食・食の安全について」

- ①トキを放鳥できるような環境を作ろうとする県の環境への取組を考えたら、ジオパークの世界認定を取った白山市が環境保全としての有機栽培や有機給食を奨めないのはおかしいと思う。市が農業と教育と市民生活に対してオーガニックで行くというグランドデザインを掲げて、それぞれの分野が具体的なプランを立てていってはどうか。
- ②オーガニック認証の食材を使用するのはハードルが高い。市独自の認証基準を設けて、オーガニック性の高い食材でもよしとなるようにできないか。

その他の意見

- ・食材の配送体制が不安。市がしっかり体制を整える必要がある。
- ・学校で調理する人材が不足している。
- ・ジオパークを冠として給食の改革を行うことで、白山市全体のイメージアップにつながるのではないか。
- ・限られた財源の中で、給食の無償化と給食の有機化どちらを優先すべきか考えたときに、有機化を優先させてほしい。
- ・アトピーやアレルギーの子が多く学校での対応が大変。医食同源という考えの下、韓国での有機給食の取組に習うならば、無償化よりも先に有機化に歩み寄ることが、白山市の看板であるジオパークやSDGsに合う。
- ・有機給食が生産者の収益担保、ジオパークで必要な環境保全、食の安全のかすがいになる。
- ・単発でよいので、まず有機給食の実績をつくるのが大切。
- ・白山市内でも食品残渣を堆肥化して野菜作りに活用する企業があったり、生ゴミ軽減の施策があるなど、生活の中でオーガニックにプラスになる取組がたくさんあるので、これを拾い上げることで上手くつながられる。
- ・給食費の補填が単独校で難しいのなら、有機栽培の試験施行を補助し、その成果物を給食に充てることで実績づくりができるのでは。
- ・オーガニック給食では調味料なども考える必要がある。
- ・子どもが生まれて、初めて食の安全性に関して知識を得ることが多い。食の安全性への意識は子供の教育にも取り込んでいくことが大切ではないか。
- ・給食の有機化については、農業振興課だけではなく地産地消課も関わるべきだ。

・給食の無償化により質が落ちることを心配している保護者がとても多い。まずは有機化も含めた安心安全の給食を実現してほしい。

備 考